

令和6年度 総合型選抜
芸術体育・生活系専攻 保健体育実技検査実施要領
器械運動

課題：マット運動の演技

「内容」

ロングマット上で以下の演技を実施する。

倒立前転ージャンプ 1/2 ひねりー後転、伸膝後転、正面水平片足立ち（2秒静止）、
側方倒立回転 2回ー開脚前転

「ねらい及び評価の観点」

マット運動の基礎的な技能を見る。具体的には個技および技の組合せの技術的实施
レベルと、演技全体のリズムや流れを総合評価する。

令和6年度入試 総合型選抜 芸術体育・生活系教育専攻
(保健体育) 実技 バスケットボール

課題1：連続シュート

「内容」

フリースローライン内のゴール手前からシュートを行い、次に右側からシュート、さらに左側からシュートを行う。その後、左右のシュート動作を交互に連続して素早く繰り返す(20秒間)。

「ねらいおよび評価の観点」

シュートの正確性、ゴールしたの素早い反応及び身体のクイックネスを見る。リバウンドボールに素早く反応・移動してシュートできているかどうかの評価の観点となる。

課題2：ドリブルシュート

「内容」

センターラインからゴールに向かって、等間隔に並べられたコーンの間をぬって右手でドリブルをし、レイアップシュートを行う。その後、シュートされたボールを拾い左手でゴールからセンターラインに向かってドリブルをする。左右両方向行う。

「ねらいおよび評価の観点」

ドリブル技能の正確性及びドリブルからシュートの連続性を評価する。評価の観点は、ボール操作の巧みさ、ドリブルからシュートへの動きのスムーズさ、シュートの正確性である。

課題3：ハーフコートでゲーム

「内容」

ハーフコートで3 on 3のゲームを行う

「ねらいおよび評価の観点」

攻撃及び防御の総合的能力を評価する。評価の観点は、攻守の個人技能及び戦術行為である(ルール理解も含む)。

2024年入試 バレーボール課題

ねらい「バレーボールにおける個人技能（パス、レシーブ、スパイク）と総合技能（ゲームにおけるオンザボールスキル、オフザボールムーブメント）のパフォーマンスを評価する。」

① 直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパス

- 床に貼られた1.2m四方の枠内で、連続して直上オーバーハンドパスと直上アンダーハンドパスでそれぞれ続ける。
- オーバーハンドパスだけ20秒間、アンダーハンドパスだけ20秒間行い、回数をカウントする。ラインを踏んだり床にボールが落ちた場合はカウントせず、続いた数のトータルを記録する。

② チャンスボールカット→セッターのトスをスパイク

- ネットの反対側からボールを投げ入れ、それをオーバーハンドまたはアンダーハンドでセッターに返し、セッターが上げたトスをスパイクで打ち返す。試技は1人5回。最初の2球はオーバーハンド、次の2球はアンダーハンド、最後は得意な方でセッターに返球する。

③ 総合技能（ミニゲーム）

- バレーボールコートで3対3、または4対4のゲームを行う。補助学生チームに対して受験生でチームをつくり、ローテーションで4人ずつゲームに出る。強打を禁止しラリーを重視するゲームと、強打も含めたゲームの2つの試技を行う。
- ◆ ネットの高さは女子2m10cm、男子2m24cmとする。ボールはミカサスマイルボール5号（220g）とする。
- ◆ 総合ゲームは、7.5m四方のコートとする。

令和6年度 総合型選抜 芸術体育・生活系教育専攻
保健体育 実技 サッカー

課題1：スキルテスト

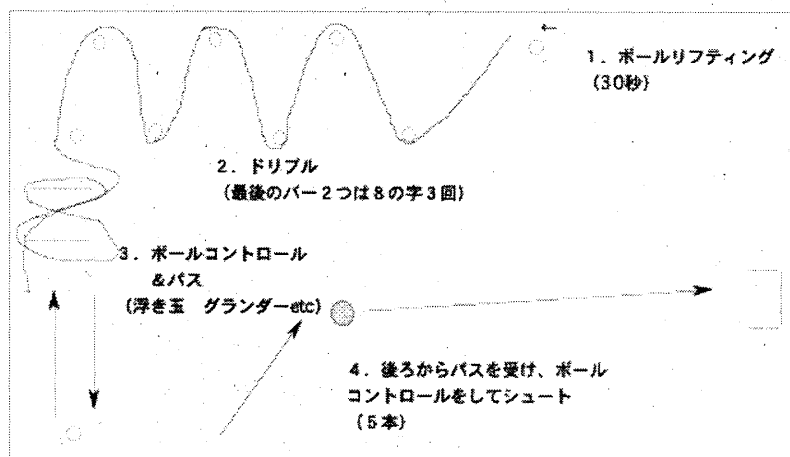
「内容」

ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロールおよびシュートを連続して行う

(3から4は3が終了後 シュートをうってから5本連続)

「ねらいおよび評価の観点」

サッカーにおける基礎技術の習熟度を見る



課題2：1対1 (ゴール付き)

「内容」

オフENSEの1対1を行う (ディフェンスは補助学生)

オフENSE側はゴールもしくはシュートするまで

ディフェンス側はボールを奪って補助学生にパスするまで

のいずれかのプレーが行われるまで続ける

「ねらいおよび評価の観点」

対人プレイの基礎的能力をみる

課題3：ゲーム

「内容」

4対4もしくは5対5 (受験生の人数による) でのゲームを行う。

人数のバランスにより補助学生が入ることもある

「ねらいおよび評価の観点」

サッカーにおける総合的能力を見る (ルール理解も含む)